

令和4年度 社会福祉法人与謝郡福祉会 事業報告書

令和4年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）によるクラスターが経営に大きく影響した1年です。特に在宅サービスへの影響が大きく稼働率が下がる要因となりましたが、居住系サービスにおける職員や利用者の感染により受け入れを制限しなければならなかつた結果といえます（法人内の感染者数は3ページの表を参照）。

さて、令和4年度の雇用状況を振り返ると、採用者が11名、退職者が23名となりました。

採用者の内訳は、正職員が1名、契約職員が6名、パート職員が4名で、年齢層は10代が1名、20代が1名、30代が2名、40代が2名、50代が2名、60代が1名、70代が2名となり、退職者の内訳は、正職員が9名、契約職員が2名、パート職員が12名の23名で、年齢層は20代が1名、30代が4名、40代が5名、50代が6名、60代が1名、70代が6名です。

令和4年度の採用と退職の状況は以上のとおりですが、退職者数に対して採用者数が少ないのは介護人材不足もさることながら法人の財政健全化に向けた取り組みの一環となります。

また、新規採用とは別枠で令和4年9月には、フィリピンから2名の技能実習生を虹ヶ丘で受け入れました。

事業を振り返ると、サービス活動収益は前年比16,517千円増（+1.1%）の1,493,454千円となり前年を若干上回る結果となりました。これは新型コロナウイルス対策、物価高騰支援の補助金が大きく影響したことによるものであつて、介護保険事業による収益は前年比でマイナス3,203千円という結果でした。

介護保険事業収益の主な内訳は、特養（施設介護料収益）が695,060千円で6,463千円増（+0.9%）、在宅サービス（居宅介護料収益）が251,548千円で17,661千円減（▲6.6%）、地域密着（地域密着型介護料収益）が132,134千円で15,788千円増（+13.6%）、ケアマネ（居宅介護支援介護料収益）が36,529千円で1,988千円減（▲5.2%）、介護予防（介護予防・日常生活支援総合事業収益）が14,518千円で2,137千円減（▲12.8%）、その他の事業収益の補助金事業収益が25,989千円で18,640千円増（約3.5倍）という内容です。

特養は施設による稼働率により明暗が大きく分かれました。また、クラスターが発生しても入院に至る利用者が少なかったため、新型コロナウイルスによる直接的な影響は大きく無かつたと言えます。在宅サービスは、ショートステイ、デイサービスが新型コロナウイルスの影響で受け入れを制限したこと、地域における実利用者数が減ってきていることが主な要因として約6,000千円の減収となりました。

サービス活動費用は、人件費が1,066,452千円となり前年比14,606千円減（▲1.4%）となりましたが、これは退職者が出ても採用を抑制した結果によるものです。

事業費は231,271千円となり前年比10,176千円増（+4.6%）となり、背景にはあらゆる物資の世界的な需要増やロシアのウクライナ侵攻による原材料価格の高騰があるというものの、電気料が前年比で12,784千円増（+30.9%）となつたことが最大の要因となりました。

事務費は129,438千円となり前年比3,403千円増（+2.7%）となりましたが、主

に外国人技能実習生の養成に伴う研修費の増加や嘱託医の手当を人件費から業務委託費に科目変更したことによるものです。

その結果、法人のサービス活動増減差額は▲10,003,808円で前年比27,815,354円(+26.5%)収支が改善し、最終的に令和4年度の当期活動増減差額は▲9,012,479円となり前年比で25,427,516円(+26.2%)改善しました。

施設ごとに分析すると、長寿苑の介護保険事業収益は267,383千円と前年比7,892千円増(+3.0%)となりましたが、費用面では人件費が増加したためサービス活動増減差額が▲3,123千円となりました。

虹ヶ丘の介護保険事業収益は482,896千円と前年比1,410千円の微減(▲0.3%)となり、費用面では人件費の削減はできましたが事業費、事務費の支出増によりサービス活動増減差額は17,766千円となりました。

岩滝あじさい苑の介護保険事業収益は365,556千円と前年比10,205千円の大幅な増(+2.9%)となった一方、費用面では人件費を大きく抑制した結果、サービス活動増減差額が前年のマイナスから22,840千円に転じ、前年比で26,817千円の大幅な改善となりました。

やすら苑の介護保険事業収益は290,575千円と2年連続で前年比マイナスとなりましたが、費用面では前年比で微減となったことによりサービス活動増減差額は10,233千円を計上しました。

法人の拠点4施設のうち長寿苑が27年、虹ヶ丘が24年、岩滝あじさい苑が22年、そしてやすら苑が10年を経過する中で、修繕計画は元より建て替えに向けた資金計画を立案するためにも財政の健全化が必須の課題となります。

与謝郡福祉会重点課題の総括

①コロナ禍における感染予防対策の実施

令和4年度は過去2年間の経験を基に感染予防に取り組みましたが、第7波、第8波によるクラスターが発生し、利用者、職員に多くの感染者を出す結果となりました。

入所系施設で陽性者が出了ことは、その感染経路が限定されるため改めて職員の健康管理、施設内の徹底した消毒作業が重要であることを認識した1年です。

②財政健全化に向けた取り組みの強化

・財政黒字化への検討課題の着実な実行

令和元年にスタートした財政黒字化への検討課題への実質的な取り組みが始まり、P D C A（計画、実行、評価、改善）サイクルのC（評価）、A（改善）の段階にあります。現段階で特に改善を要する項目は、職員の適正数の見直しです。令和4年度は、財政健全化のために設定した職員数を達成しましたが、未だ人件費率が71%となっているため改めて職員数の見直しが必要です。

・人材育成、生産性の向上、支出コストの削減

コロナ禍で制限されてきた研修会も徐々に活発化してきた1年であったと実感する中で、今後はこれまでの遅れを取り戻すべく更に充実した研修の場を持ちます。

生産性の向上は、ICT化を進めることで業務の負荷が軽くなりましたが、今後は情報機器の活用に頼る改善ではなく時間の有効活用に活路を見出す必要があります。

職員間でコスト削減の意識を徹底したことにより、小さなことから一つずつ取り組んでいますが、まだ改善の余地があると思われますので取り組みを継続します。

③人材の適正配置

施設間異動や施設間での応援体制を整えることで、法人のスケールメリットを活かすことができました。引き続き積極的な施設間異動に取り組むことで、生産性の向上、組織の活性化に寄与します。

令和4年度における法人内の新型コロナウイルス感染状況

	本部	長寿苑	虹ヶ丘	あじさい苑	やすら苑	合計
職員	2	9	26	25	5	67
利用者	—	2	17	25	0	44
合計	2	11	43	50	5	111